

第 25 回日本産業ストレス学会開催報告

平成 30 年 2 月吉日

第 1 回大会より 4 半世紀を経過し、ストレスチェック制度も 3 年目に突入した、平成 29 年 12 月 8～9 日の 2 日間にわたり、第 25 回日本産業ストレス学会を担当いたしました。静岡県コンベンションアーツセンター グランシップを会場に医師・看護職・心理職・人事労務管理者等、約 850 名の方にご参加いただきました。

今学会は、メインテーマを「ストレス社会における産業保健・産業看護～一次予防へのパラダイムシフト～」と掲げ、特別講演 1 題、基調講演 2 題、教育講演 3 題、ワークショップ 3 題、メインシンポジウム、シンポジウム 5 セッション、一般演題 49 題、ランチョンセミナー 3 セッションの発表が行われ、職場メンタルヘルス対策の「一次予防」にフォーカスを当てた個人や組織に対する活性化、不調を起こさない職場環境や風土づくりにおいて様々な視点から議論が行われました。

特別講演「職域におけるメンタルヘルス対策～ストレスチェックの実施及び現状～」(毛利 正先生：厚生労働省)では、行政の立場より、施行から 2 年経過したストレスチェック制度における現状や職場環境改善など今後の展望についての講演、教育講演「職場のメンタルヘルスのリーダーシップとイノベーション」(川上憲人先生)、「実効性のあるメンタルヘルス対策の樹立に向けて～集団/組織のアセスメントツールの活用～」(河野啓子先生)、「「職場ドック」ですすめるメンタルヘルス対策」(吉川徹先生)と、これからのメンタルヘルス対策のあり方や実践についてお話しいただきました。

メインシンポジウム(写真、シンポジスト：小林章雄先生、斎藤政彦先生、五十嵐千代先生、大塚泰正先生、座長 巽・西)では、専門家・産業医・看護職・心理職の各領域の第一人者にご登壇いただき、一次予防への「パラダイムシフト」を、現状の問題点から今後の具体策など多面的に議論しました。

シンポジウムでは、「産業看護」の視点から職場環境改善の具体的な取り組み方について、看護職から職場の実践事例の紹介や、「組織と個人の活性化」に向けた手法開発とその効果について心理職からの発表、メンタルヘルス対策の職種間連携、ストレスチェック制度の問題点と対応策、地域・職域連携による効果的な自殺予防について取り上げました。ワークショップでは、職場のセルフケア研修における睡眠衛生教育やマインドフルネス、ストレスチェックの研修コンサルテーション、若手産業保健スタッフの育成を兼ねた講座と多くの専門職の方々に実践で使えるスキル等をご講演いただきました。尚、総会では、日本産業ストレス学会表彰制度受賞者(第 6 回 平成 29 年度)による講演が行われました(功労賞：下光輝一先生)。

一次予防、産業保健・産業看護、地域特性などの特徴ある本大会を盛会裏に終了できましたことは、今後の本学会の発展に貢献できたのではないかと考えております。

本学会の企画・運営には多くの困難がありましたが、多くの方々と力を合わせるといふ産業保健の核となる協働・連携の大切さを改めて実感することができました。本学会の開催にあたり、ご指導、ご協力いただきました皆様に深く感謝申し上げます。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

第 25 回 日本産業ストレス学会

巽 あさみ(浜松医科大学医学部看護学科 地域看護学講座)

西 賢一郎(ジャトコ株式会社 安全健康管理部)



写真1. メインシンポジウム総合討議



写真2. 大会長 巽 あさみ (左)、西 賢一郎 (右)